

見附市子ども・子育て地域協議会会議録

日時 令和5年12月22日（月）午後1時30分～2時30分
会場 見附市役所402会議室
出席 別紙のとおり
内容 見附市子ども・子育て地域協議会

<<委員紹介>>

名簿のとおり

<<開会>>

【司会】

定刻になりましたので、ただいまから、見附市子ども・子育て地域協議会を開会いたします。開催に先立ちまして、こども課長より一言ご挨拶させていただきます。

【こども課長】

本日は悪天候の中お集まりいただきありがとうございます。

この委員会は、「見附市子ども・子育て支援事業計画」の策定や、保育園の定員や認可に関することについて意見をいただくものである。見附市はこれまで子育ての施策に力を入れてきた。今年度は、プレイラボみつけの開館、中学生以下の子がいる親へ臨時給付金を行っている。また、現在は、こども条例の制定に向け動いている。子どもの権利、市の責任、保護者や保育所の役割について共通認識を持つための条例であり、市民委員の意見を聞きながら進めている。2月頃にはパブリックコメント、3月議会での制定を目指しているので、委員の皆様には注目してもらいたい。

今回の委員会では、子育て施策全般に関することにご意見をいただくことになる。委員会は本日を入れて3回を予定している。子育てするならやっぱり見附となるよう、お力添えをお願いしたい。

<<委員・事務局紹介>>

見附市子ども・子育て地域協議会委員参照
名簿2の山谷委員は欠席

<<委員長・副委員長の選任について>>

【司会】

次第3の議題（1）委員長及び副委員長を選任させていただきます。

皆様、いかがでしょうか。

———— 一任の声有 ————

事務局一任との意見がありましたので、事務局案として、委員長にホップこども園の園長北澤委員、副委員長に見附市教育委員会の教育部長近藤委員にお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

———— 承認 ————

<<保育所等の認可について>>

【委員長】

皆様の協力のもと、次第に沿って委員会を進めたい。
議題（２）、保育所等の認可について事務局より説明をお願いします。

【事務局】

資料 1-1~3 に沿って説明。

【矢島】

資料にある和楽保育園はどここの園か。専門用語が少し多い感じがしたので、もう少しわかりやすくしてほしい。あと、どろんこ保育園の新設について、説明があったとおり障害者に強い園であることは分かったが、具体的に場所や保育内容について教えて欲しい。

【委員長】

説明をお願いします。

【事務局】

和楽保育園は小学校区が田井小学校となる。比較的、名木野町に近いエリアである。和楽保育園は、もともと令和 4 年度に名木野保育園と漆山保育園の 3 園セットで民営化公募を行い、令和 6 年の民営化を目指した。しかし、和楽保育園は応募がなかった。現在、再公募を行っている最中で、今後の処遇については未定である。園児数は 16~17 名程度である。

【笹羅】

子どもは 3 歳であるが、未満児の預け先が少なく苦労した。預ける際に保育園、こども園、地域保育園などの資料を見たが、内容の把握ができなかった。保育園を探す時に HP よりも、近所の知り合いからの声が参考になった。市からも多くの情報が欲しかった。

新しい園ができること、建替えの園があることは非常に魅力的であるが、それについて何が悪いのか教えて欲しい。

【事務局】

情報の出し方については、広報やHPで行っているが、より分かりやすくできるように工夫したい。また、保育園は確かに数が多いほど、保護者の選択肢が多くなりいいことだと思う。しかし、保育園は住民票がある自治体の保育園へ通ってもらうことが原則である。子どもの数が少なくなってくる中、園が乱立することは、保育園運営面でよくない。見附市では、公立保育園の定員を少なくしたり閉園したりして全体の保育提供量の調整を行っている最中である。

【小山】

今回の資料について、和楽保育園の継続か閉園かの部分が出ている。結論が出ていないものについて出すべきではないと思う。定員について資料が全体像を示していないため（私立保育園の定員）、全体があった方が分かりやすい。また、県が認可を行うという資料となっているが、これはいつのものか。

【事務局】

9 月に県と認可の協議を行った際の資料である。認可については、正式なものではなく、認可の方向で進めていいというものである。また、和楽保育園についても、未定ではあるが全体の数量調整が必要な園であるため、県との協議の際に使用した資料を掲示させていただいた。

【委員長】

どろんこ保育園について説明をお願いします。

【事務局】

この保育園は定員 75 名（保育部分は 69 名）、見附市熱田町地内に建設中である。インクルーシブ保育といい、見守りがいる子どもとそうでない子どもと一緒に保育を行い、お互いの成長を促

すものである。その他にも園庭に泥遊びスペースがあったり、給食は基本和食であったりと特徴的な保育を実践している。先ほどの資料で説明したとおり、見附市では保育提供量は十分確保しているが、障害児に強い保育園であることから、公立保育園の定員を減らしてでも、作るべきとの結論となり、県と協議を進めたものである。

【副委員長】

この委員会では認可の可否を審議するのではなく、進め方について意見をいただく認識で間違いないか。

【事務局】

その通りである。認可に向けて意見をいただきたいものである。

【委員長】

全国的に見ても公立保育園は民営化や閉園により、私立に担ってもらう体制となっている。今回は障害児保育を担ってくれる園が新しくできることは心強いと思う。見附市は保護者が保育園を選ぶ方法として、広報やHPでもっとPRして欲しいという生の声をいただいた。見附市の方向性として、認可はこれで進めさせていただきたい。PR方法は検討をしていただきたい。

<<放課後児童クラブの新設について>>

【委員長】

続きまして議題（3）、放課後児童クラブの新設について事務局より説明をお願いします。

【事務局】

資料2に沿って説明

葛巻小学校区の利用者が増加するため、閉園する反田保育園を第2ひだまりキッズクラブとして整備する予定である。

【矢島】

第1・第2は選べるのか。

【事務局】

保護者の選択はできない。

【矢島】

現在、葛巻地区ふるさとセンターで運営している児童クラブは40名以上で溢れかえっている。児童クラブの子どもが施設内に溢れかえっており、小さい子どもを連れていける施設ではなくなった。

【事務局】

そのため、来年度は60名となる見込みのため、反田保育園に40名、ふるさとセンターを20名程度にして調整を行う。

【矢島】

ふるさとセンターでの児童クラブ運営をしっかりとしてから、第2ひだまりキッズクラブを作るべきである。

【事務局】

ふるさとセンターをできるだけ元の形に戻すために、第2ひだまりキッズクラブを整備することにご理解をいただきたい。

【矢島】

反田保育園の広さは十分なのか。

【事務局】

体育館がないため学校の体育館を使っている児童クラブより手狭な感じはあると思う。しかし、

他市の児童クラブと比較すると施設的には狭いとは思わない。

【矢島】

兄弟は同じところで見てもらえるのか。

【事務局】

出来る限り調整をする。ただ、全体像が見えていないため、今は詳細までは答えられない。

【小山】

放課後児童クラブの需給関係の全体像が資料で見えないので、見えるようにしてほしい。全体の数量は満たされているとのことだが、新しい児童クラブは必要なのか。

【事務局】

児童クラブは小学校ごとの需給関係を見なくてはならない。市内全体の量は満たされているが、葛巻小学校の提供量が足りていないということである。保育園は保護者の送迎が前提だが、児童クラブは小学校下校後に児童自ら行くことになる。学校ごとに需給関係のバランスを取らなくてはならない。

【藤田】

子育て支援センターでは大きい子どもは走り回り、小さい子どもを保護者が守る姿を見てきた。適切な児童数で調整を行ってほしい。

【委員長】

それでは、学校ごとに整備が必要であるため、児童クラブを新規開設する方向で進めさせていただきたいと思う。

<<子ども・子育て支援事業計画について>>

【委員長】

議題（４）、子ども・子育て支援事業計画について事務局より説明をお願いします。

【事務局】

資料３に沿って説明

「子ども子育て支援事業計画」と「こども計画」を一体化して作成を行う。調査を本年度実施、来年度は策定を行う。本年度は次回の委員会で調査用のアンケート案を協議、第３回委員会ではアンケート結果の確認と課題の整理を行う。

【小山】

アンケート作成や集計はコンサルタントにお願いするのか。

【事務局】

コンサルタント会社が入ってくる。事業者は既に決定している。コンサルタントが示したものを、事務局で協議し、皆様にお示ししたい。

【小山】

先行する自治体でのアンケートは 20 ページくらいあった。できるだけ短くしてほしい。回収率が低くなるのが懸念される。

【委員長】

国から示された大枠はあるのか。

【事務局】

保育の需給調査など各種政策の数字的根拠となるため、それなりの量となる。

【小山】

ベストなところに調整してほしい。

【矢島】

Webではなく紙の方が回答率アップにつながるのではないかと。

【事務局】

限られた資源の中で全て取組まなくてはならないため、集計作業や郵送料等、作業時間やコスト面を考えWebを選択した。回収率低下は懸念材料ではあるが、保育園などから保護者へ案内をしていただき回答数を確保したい。また、来年度は、子どもから直接聞き取り調査を検討していることも申し添える。

【小山】

保護者がWebか紙が選択できるようにしてほしい。Webの場合は途中で保存できるようにしてほしい。また、保育園からの連絡帳がいただけるとういかもしれない。

【事務局】

アンケートはWebで行いたい。また、内容や聞き取り方法について、どのようなところができるか調整していきたい。

【笹羅】

アンケートを実施する際、親が思いを吐き出せる場所が欲しい。また、回収率を上げるためには、所要時間等を掲示するとういかもしれない。また、みらい市場の商品券など、回答するとインセンティブがあると回答数が増えると思う。

【事務局】

自由記述欄は必要であると考えている。また、インセンティブについてはそれなりの効果は期待できるが、難しいかもしれない。

【委員長】

多くの貴重な意見、ありがとうございました。

<<新委員の就任について>>

【委員長】

議題（5）新委員の就任について事務局より説明をお願いします。

【事務局】

資料4に沿って説明。

新委員として新潟県立大学の教授、小池由佳先生を新委員として迎えたい。

————承認————

【委員長】

ありがとうございます。

ここで、本日、委員長を務めさせていただいた私から一点、お願いがございます。ただいま、県立大学 小池先生の委員就任の承認をいただいたところですが、次回、小池先生が出席された際に、委員長をお願いしたいと思います。事務局側もこども計画という初めて作成する計画であることから、小池先生に委員会を取り仕切っていただきたいと考えます。もし、小池先生から当日ご了解いただければ、私と近藤副委員長が二人で会長をサポートする体制とさせていただけないでしょうか。

————承認————

それでは議事はここで一度締めさせていただきます。

進行を事務局へお返ししたいと思います。

【司会】

北澤委員長、大変ありがとうございました。皆さま、本日は大変ありがとうございました。

以上で第1回見附市子ども・子育て地域協議会を終了いたします。

次回、第2回は1月22日（月）午後1時30分から市役所大議室での開催を予定しております。
引き続き、委員会へのご協力をお願いします。